

【重要課題】排水および廃棄物の削減

方針・基本的な考え方

日本化薬グループでは、法令および都道府県や市町村の条例で定められた規制値よりもさらに厳しく自主管理基準値を設定し、基準値を満たしているものを排水しています。当社は、染料、インクジェット用インク等の色材関連製品を扱っています。これら色材関連製品を製造している工場では、製造工程で発生する着色廃水を脱色処理して排出しています。

また、廃棄物については、生産から消費、廃棄に至るまで物質の効率的な利用やリサイクルを進めることで資源の消費を抑制し、環境への負荷が少ない循環型社会の実現を進めていかなければなりません。そこで、日本化薬グループでは**KAYAKU Vision 2025 (KV25)** にリサイクル率およびゼロエミッション率を重要指標 (KPI) として目標を掲げ、廃棄物削減とともに、事業活動で発生する廃棄物をさらなる次の資源と考えて有効利用に努めています。

体制

▶ [レスポンスフル・ケアの推進](#)

指標

排水の管理

| 指標 | 対象範囲 | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| COD | 単体 | トン | 132.1 | 133.7 | 145.2 | 122.6 | 124.2 |
| 全リン | 単体 | トン | 1.4 | 1.6 | 4.1 | 3.2 | 2.0 |
| 全窒素 | 単体 | トン | 75 | 93 | 72 | 83.2 | 70.4 |
| SS※ | 単体 | トン | 50.0 | 45.3 | 46.0 | 48.2 | 31.9 |

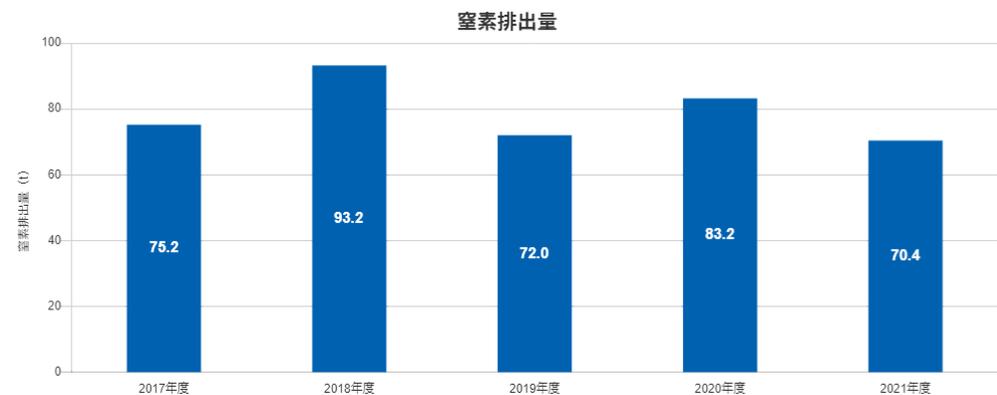
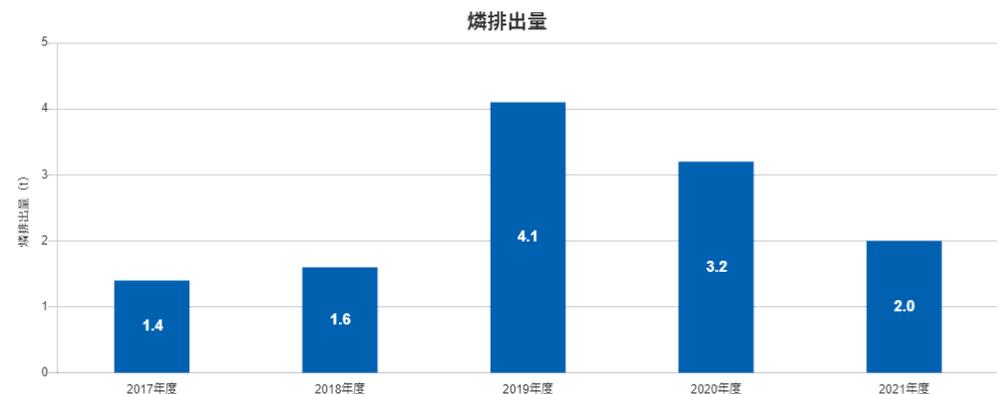
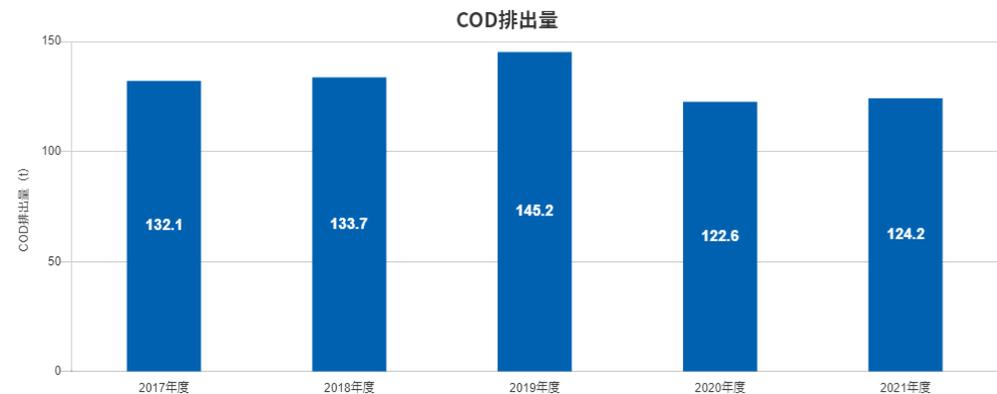
※ SS (Suspended solids) : 浮遊物質量、水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質、鉱物による微粒子、動植物プランクトンやその死骸、下水、工場排水等に由来する有機物や金属の沈殿物を含む、浮遊物質が多いと透明度等の外観が悪くなるほか光が透過しないために水中の光合成に影響

PRTR対象物質

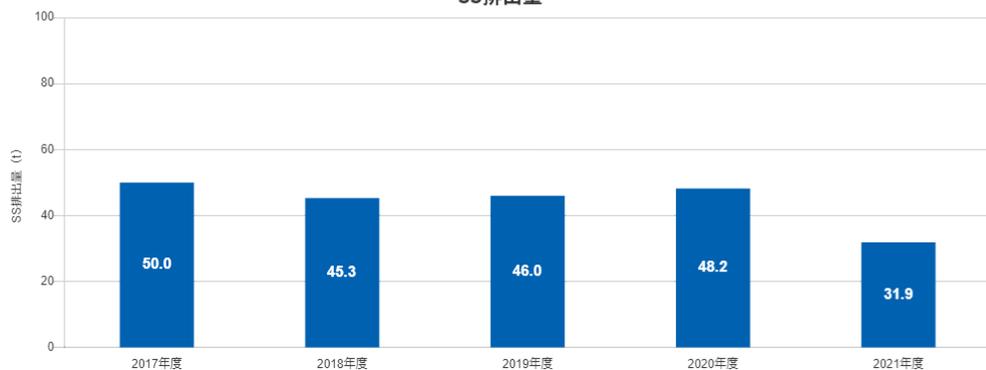
| 指標 | 対象範囲 | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | |
|-------------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| PRTR対象物質排出量 | 大気 | 単体 | トン | 15.9 | 17.1 | 18.9 | 16.8 | 25.2 |
| | 水域 | 単体 | トン | 11.5 | 11.4 | 13.3 | 9.1 | 14.7 |
| | 土壌 | 単体 | トン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 | 単体 | トン | 27.4 | 28.5 | 32.2 | 25.8 | 39.8 |

※ 四捨五入の関係で、各項目の和と合計が一致しないところがあります

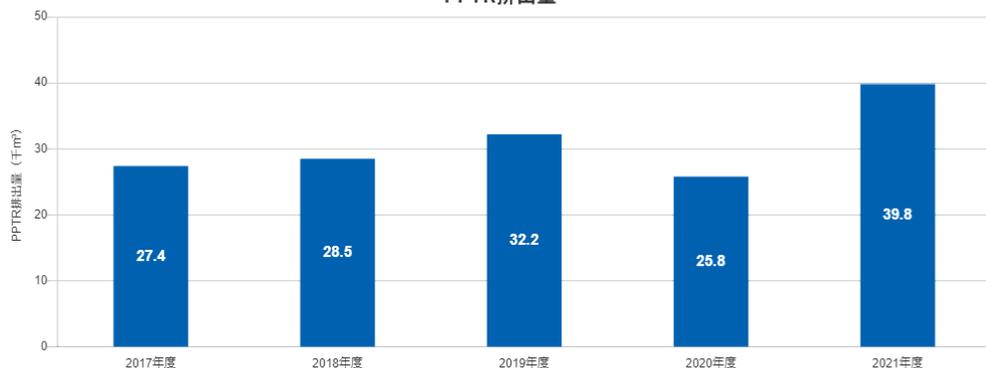
※ PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 環境汚染物質排出移動登録、PRTR法は、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境保安上発生する問題を未然に防止することが目的



SS排出量



PPTR排出量



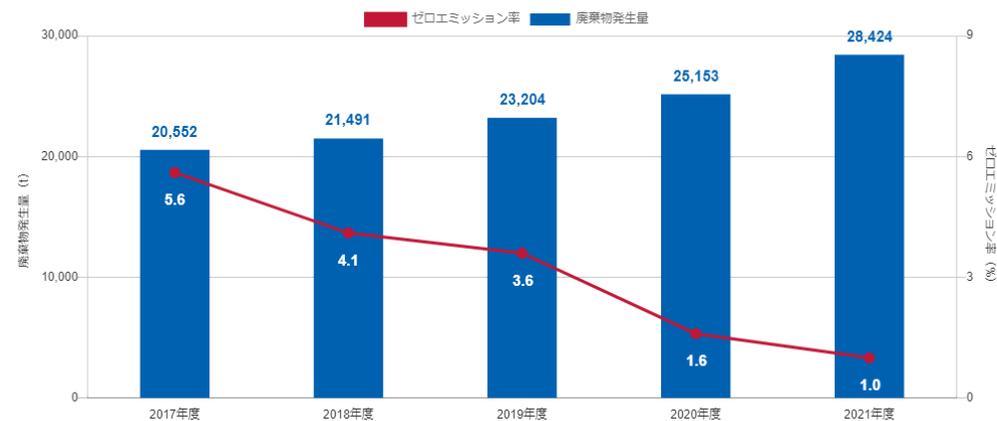
廃棄物

2021年度の廃棄物発生量は28,424トンで、前年度の25,153トンより約13%増加しました。一方で、各事業場でリサイクル化を促進し環境負荷低減の取り組みを継続して進めた結果、埋立処分量は前年度の約74%まで減少し298トン、ゼロエミッション率は0.4ポイント減少の1.0%となりました。

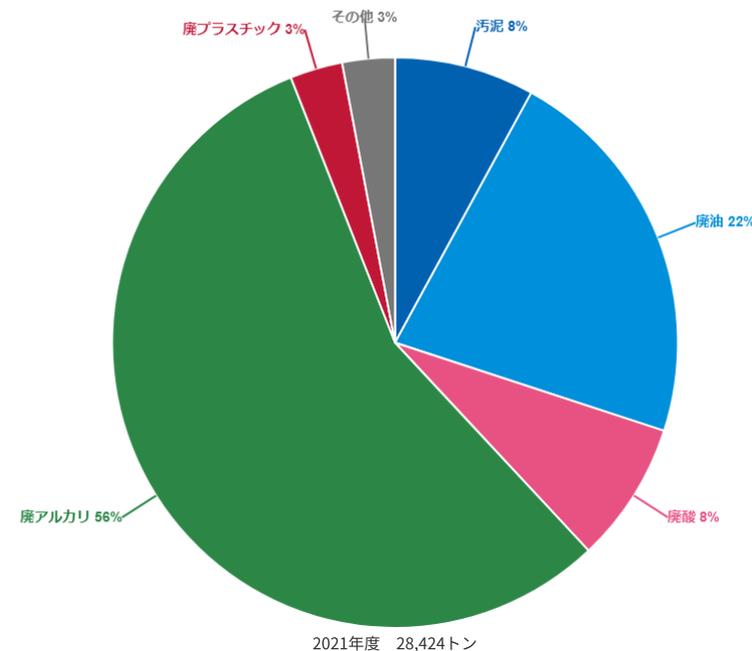
今後も各工場での生産量をウォッチングしながら、事業活動によって発生する廃棄物量の削減と有効利用を検討し、また地球環境負荷の大きい埋立廃棄物のリサイクル化を推進しながら全社で地球環境保護に努めてまいります。

| 指標 | 対象範囲 | 単位 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|----------|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 産業廃棄物発生量 | 単体 | トン | 20,552 | 21,491 | 23,204 | 25,153 | 28,424 |
| 再資源化量 | 単体 | トン | 16,380 | 17,493 | 19,584 | 20,449 | 23,290 |
| 最終処分量 | 単体 | トン | 1,148 | 870 | 847 | 404 | 298 |
| リサイクル率 | 単体 | % | 79.7 | 81.4 | 84.4 | 81.3 | 82.3 |

廃棄物発生量及びゼロエミッション率の推移



発生廃棄物の内訳



取り組み

福山工場 汚泥処理変更によるゼロエミッション

福山工場の生産活動から発生する廃棄物は多くの種類がありますが、その中でも廃液処理から発生する汚泥はかなりの割合を占めています。

この汚泥は水分を含むことから処分が難しく、以前は適切な管理のもと埋立処分としていましたが、環境負荷低減を目指してこの汚泥をリサイクルできないか検討した結果、廃棄物焼却施設で使用する熱量調整用の燃料（いわゆる減燃料）として活用できるようになりました。そして、廃棄物処理業者もリサイクル燃料を確保できるということになり、お互いに有効活用できるようになりました。

また、廃棄物発生量に対する埋立量の割合であるゼロエミッション率の目標（1%以下）を達成することができただけでなく、廃棄物のリサイクル率向上および処分費低減にもつながりました。

カヤク セーフティシステムズ デ メキシコ

産業廃棄物管理

カヤク セーフティシステムズ デ メキシコは、木材、ボール紙、非鉄金属、アルミニウム、プラスチックなどの固形廃棄物を適切に分類し、それらを再利用できる外部の供給業者を見つけるように絶え間なく取り組んでいます。これらの材料は2〜3ヶ月間所定の場所に保管し、政府が認可した供給業者によって定期的に収集されています。

収集された廃棄物のうちリサイクルできるものは、それぞれのリサイクル業者へ運び、木材は木製パレットを製造し、段ボール類は再生され、さらにプラスチックやアルミニウムおよび鉄は、新しい原料を生み出します。

このプログラムは、リサイクルのためのペットボトルや適切な処理のための有機および無機廃棄物などに分類することができる休憩エリアなどの非生産的な分野にまで及びます。



[> サイトレポート](#)